

取組実績の概要 【2ページ以内】

【2017年度】

1. 事業の開始にあたり、長崎大学にプログラム全体の事務局を設け、事業推進の基盤を構築した。
2. ロシア等への学生派遣では、長崎大学から修士課程3名・博士課程1名がロシア連邦のI.I.メーチニコフ名称国立北西医科大学(以下、北西医科大学)でのワークショップ、フィールド実習に参加した。
3. 長崎大学から医学部学生3名、福島県立医科大学から医学部学生2名をベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学へ派遣し、フィールド実習や医療機関での研修を実施した。
4. 北西医科大学と日露大学間での教育制度の相違の認識から始め、単位互換から最終的にダブル・ディグリー・プログラム(以下、「DDP」という。)への課題やタイムラインを確認した。
5. 参加大学の学長、担当理事等が参加したコンソーシアム設立総会を行い、カリキュラム及び学生交流に関する委員会を設置し、DDPに向けた準備を開始した。
6. 福島県立医科大学長と関係教員がロシアを訪問して北西医科大学と学術交流協定を締結した。
7. ホームページの開設や留学フェアへ参加し、広報活動を積極的に行った。

【2018年度】

1. 単位互換のための学生受入を開始し、北西医科大学生6名が長崎大学において「放射線防護学」を受講した。
2. 長崎大学から修士課程学生8名、博士課程1名、福島県立医科大学から修士課程学生2名を北西医科大学へ派遣し、「生物統計学」を受講した。
3. 長崎大学から医学部学生1名、福島県立医科大学から医学部学生2名をベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学へ派遣し、フィールド実習や医療機関での研修を実施した。
4. DDPの実施に向けて単位互換できる科目を増やすと同時に、テレビ会議システムを利用した単位互換科目について検討した。
5. 第2回年次コンソーシアム運営会議を福島県にて福島県立医科大学主催で開催し、プログラムの進捗状況等について確認した。
6. 外部評価委員会を開催し、交流学生の選考基準、アウトカム評価、補助事業終了後の事業継続方策、社会へどういった人材を送り出すのかなどの改善に向けた貴重な意見交換が行われた。
7. 北西医科大学のプログラム担当教員を招聘し、福島県川内村において川内村実習検討ワークショップを開催すると共に、福島県立医科大学において放射線災害医療実習の検討会を行い、学生交流予定である実習の意義や特色、得られる知識、技能について確認した。
8. 国内の関連学会やロシア各地で開催された日本留学フェアにおいて広報活動した。

【2019年度】

1. 北西医科大学生5名が長崎大学において「放射線防護学Ⅰ」及び「放射線防護学Ⅱ」を受講した。
2. 北西医科大学生5名が長崎大学及び福島県立医科大学において「長崎大学川内村実習」と「福島医大救急医学実習」を福島県で受講した。
3. 長崎大学から修士課程学生7名、福島県立医科大学から修士課程学生2名を北西医科大学へ派遣し、「生物統計学」を受講させた。
4. 長崎大学から医学部学生3名、福島県立医科大学から医学部学生2名をベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学へ派遣し、フィールド実習や医療機関での研修を実施した。
5. 3大学によるカリキュラム委員会を3度開催し、学生交流に関する事項、学生交流に伴う単位互換に関する事項、DDPの構築に向けた事項などについて検討した。
6. 第3回目となる年次コンソーシアム運営会議をロシア(北西医科大学)にて開催し、DDPの課題検討、単位互換が可能な科目の検討、日露大学間の教育制度への課題について意見交換などが行われた。
7. 日露産官学連携実務者会議に長崎大学・福島県立医科大学・北西医科大学の担当教員が出席し、日露協働の取組事例を発表した。
8. ロシア・ハバロフスクの日本留学フェアに参加し、本プログラムを含めた広報活動を行った。

【2020年度】

1. コロナ禍により渡航ができなかったが、迅速に対応し、オンライン授業にて北西医科大学生4名が長崎大学の「放射線防護学Ⅰ」及び「放射線防護学Ⅱ」を受講した。
2. コロナ禍により渡航ができなかったが、迅速に対応し、オンライン授業にて北西医科大学生6名が長崎大学及び福島県立医科大学の「長崎大学川内村実習」と「福島医大救急医学実習」を受講した。

3. コロナ禍により渡航できなかったが、迅速に対応し、オンライン授業にて長崎大学から修士課程学生6名、福島県立医科大学から修士課程学生1名が北西医科大学の「生物統計学」を受講した。
4. オンライン授業にて北西医科大学生4名が長崎大学の「リスクコミュニケーション学」を受講した。
5. 3大学によるカリキュラム委員会を4回開催し、学生交流に関する事項、学生交流に伴う単位互換に関する事項、DDPの構築に向けた事項、さらにはコロナ禍による対応策について検討した。
6. 第4回目となる年次コンソーシアム運営会議をオンラインにて開催し、DDPの実施及び今後の本事業運営に関して、意見交換が行われた。また、単位互換科目のオンライン化について高く評価された。
7. ロシア極東地域・キルギス・カザフスタンの日本留学フェアに参加し、本プログラムを含めた広報活動を行った。

【2021年度】

1. コロナ禍により渡航ができなかったが、オンライン授業にて北西医科大学生2名が長崎大学の「放射線防護学Ⅰ」及び「放射線防護学Ⅱ」を受講した。
2. コロナ禍により渡航ができなかったが、オンライン授業にて北西医科大学生3名が長崎大学及び福島県立医科大学の「長崎大学川内村実習」と「福島医大救急医学実習」を受講した。
3. コロナ禍により渡航ができなかったが、オンライン授業にて長崎大学から修士課程学生6名と博士課程3名、福島県立医科大学から修士課程学生1名が北西医科大学の「生物統計学」を受講した。
4. オンライン授業にて北西医科大学生2名が長崎大学の「リスクコミュニケーション学」を受講した。
5. オンライン授業にて北西医科大学生2名が長崎大学の「リスク管理学特論」を受講した。
6. DDPの入学試験を8月に実施し、北西医科大学側の学生1名がDDP1期生として秋入学した。
7. 3大学によるカリキュラム委員会を2度開催し、DDPに係る学術交流協定書・合意書の内容や実施要項の内容について了承され、7月に協定書及び合意書が締結された。
8. 第5回目となる年次コンソーシアム運営会議をオンラインにて開催し、短期交流会やDDP開始について報告がなされた。また、DDPの継続と改善策について話し合われた。
9. 外部評価委員会を開催し、学生交流にてオンライン化が進んだこと、DDPを開始したことについて高い評価を得た。
10. ロシア極東地域・キルギス・カザフスタンの日本留学フェアに参加し、本プログラムを含めた広報活動を行った。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

	2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		合計					
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入				
計画※	6	0	10	10	10	10	10	10	10	10	46	40				
実績	実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)		9	0	14	6	14	10	0	0	0	0	37	16		
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)						0	0	7	14	A	10	A	6	17	24
	実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)						0	0	0	0	B	0	B	4	0	0

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

※2021年度オンラインについては、以下A Bそれぞれの実績値を記入。

A：コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの

B：もともとオンライン実施で準備していたもの

特筆すべき成果（グッドプラクティス） I 【1ページ以内】**【 I 事業全般について】****【2017年度】**

1. 災害・被ばく医療科学共同専攻の学生が「日露学生フォーラム」に参加した。
2. 本プログラムのホームページを開設した。
3. ウクライナやカザフスタン向けの留学生フェア等に参加して本プログラムの広報を行った。
4. 福島県川内村の復興推進拠点に放射線測定器やモニタリングシステムを導入し、今後の実習の環境整備を行った。

【2018年度】

1. 災害・被ばく医療科学共同専攻の学生が「日露学生フォーラム」に参加した。
2. 北西医科大学の担当教員が来日し、講義などを視察した。
3. 北西医科大学の学生らが来日し、長崎大学開講のジャック・ロシャール教授（国際放射線防護委員会副委員長）による「放射線防護学」を受講した。
4. 来日した北西医科大学の学生らに対して、長崎大学の留学生用宿舎の提供やJASSO奨学金の支給を行った。
5. テレビ会議システムを用いて履修できる講義を増やすことができるようカリキュラム委員会で協議を開始した。
6. ベラルーシ共和国でのフィールド実習に備えて、ゴメリ州に共同実習センターを開所した。
7. 教育の質保証の観点から、2018年夏より「生物統計学」の英語テキストで長崎及び福島プログラムの担当教員による補講を行った。
8. 長崎大学・福島県立医科大学からの学生派遣については、北西医科大学所有の宿泊施設を利用できるようにし、派遣時の環境整備を進めた。
9. 北西医科大学・長崎大学・福島県立医科大学の教員による合同セミナーが北西医科大学で開講された。
10. 来年度に単位互換を予定している「長崎大学川内村実習」及び「福島県立医科大学救急医学実習」の実施に向けて、北西医科大学から担当教員を招聘し、川内村や福島県立医科大学を視察することで、教育方法や環境整備について、意見交換を行った。

【2019年度】

1. 北西医科大学生の5名が、福島県川内村にて実習の一環として地元地域の被災者の貴重な体験談を聞き、植物の放射線測定などを行い、復興に向けた取り組みに関する知識を得ることができ、北西医科大の学生や教員からも高い評価を得た。
2. 北西医科大学にて長崎大学及び福島県立医科大学の9名が、「生物統計学」を受講し、受講期間のディスカッション及びレポートに基づいて北西医科大学の担当教員より優秀な評価を受け、それらの評価を参考にして、長崎大学と福島県立医科大学は本専攻の「疫学」として単位認定した。
3. 「放射線防護学Ⅰ」及び「放射線防護学Ⅱ」を受講するために渡日した北西医科大学の学生を対象に、同期間中に長崎大学病院の施設見学や病院長と懇談を行い、学生らは日本の医療現場への理解を深めることができた。

【2020年度】

1. 新たに長崎大学の「リスクコミュニケーション学」を北西医科大学学生が受講した。
2. 「長崎大川内村実習」や「福島医大救急医学実習」を国際セミナーも兼ねて開講したところ、国際機関のIAEA等の専門家及び学生ら約120名からも高評価を得ることができた。
3. 中央アジアを対象とした日本留学フェアをきっかけに、キルギス国立医科大学の副学長からコンタクトがあり、後日、オンライン会議にて学生交流に向けた意見交換が行われた。

【2021年度】

1. 新たに長崎大学の「リスク管理学特論」を北西医科大学の学生が受講した。
2. DDPの学術交流協定書・合意書・実施要項が締結された。
3. DDPの1期生（北西医科大学の学生）が10月より入学し、DDPを開始した。
4. 外部評価委員会を開催し、授業のオンライン化やDDPの開始について高い評価を得た。

特筆すべき成果(グッドプラクティス)Ⅱ【1ページ以内】**【Ⅱ オンラインの活用について】**

1. コロナ禍により渡航を伴う学生交流が実施できなかったものの、オンラインにより北西医科大学の学生らが6科目を受講することができ、オンラインによる教育体制の構築が飛躍的に進んだ。
2. 「救急医学実習」において新たに開発したシミュレーションソフトは、受講生から高い評価を得るとともに、オンラインと仮想現実を組み合わせた新たな教育体系が確立された。
3. オンライン授業に対応するため、北西医科大学の「生物統計学」の英語授業では、クラウドを利用したSAS統計ソフトによるデータ解析演習に取り組み、受講者から高い評価を得るとともに、新たな教育体系が確立された。
4. DDP学生が来日せずにオンラインで授業を受講できる教育体系を構築した。
5. 学内外の会議や外国向けの留学フェアなど、オンラインにより開催・参加が容易になった。